

おいしさの秘密

兵庫県

兵庫教育大学附属中学校

二年

山口

倫佳

ここは坂越湾。静かな海の波の音とサワサワと木々がこすれる音を聞きけすように

「ジ……。ジジジ……。ジュツ！」

とお腹を刺激するおいしそうな音。

磯の良い香りが辺り一面に漂う頃、両親がジャンケンを始めた。どちらが帰りの車の運転をするか、ビールを飲む権利の獲得戦だ。姉たちはスマホで写メを撮り始めた。小さい頃は末っ子の私が被写体だったが、今は被写体がカキに変わった。少し残念だ。海のミルクと表現されるだけあって、プリプリとうま味が詰まった身だ。のど越しにツルンと通る食感がたまらない。おもわず

「おいしい！」

と大きな声。

「おいしい！すごいね！」

と連呼する私にお店のおばちゃんが

「ここは生島と千種川が流れ込んでいるから特別に美味しいカキができるのよ。」

と教えてくれた。

おばちゃんが店の奥へ入っていくと、すかさず父が話し出した。

「なあ。なんで生島と千種川があるとおいしいカキができると思う？」

普段は寡黙な父だが、理系なだけあって理科に関わることになるのとたんに饒舌になるところが面白い。私が黙っていると、父が

「海の食物連鎖の起点はどこ？」

とさらに質問してきた。

「植物プランクトンに決まってるやん。光合成で増えるねんで。」

と教科書に書いていた図を思い浮かべながら自慢気に答えた。

「そうだね。じゃあ、スペシャルヒント！植物プランクトンの成長や増

殖するためには光合成だけが必要なの？」

と父が楽しそうに質問をたたみかけてきた。

「窒素とリンだけど……。あつ！腐食連鎖が関係してるのやね。」

「わかった？おばちゃんの言いたかったことはそういうことや。」

と父は私に笑いかけてきた。

生島には大昔から大避神社が祀られており神地として立ち入り禁止になっている。そのため生島にはたくさんの広葉樹が生い茂り、海へ栄養分を補給する役目を果たしている。一方、千種川は宍粟市の江波峠から長々と流れ下り、その間、たくさんの陸上の有機物を溶け込ませ、ここ坂越湾に流れ込んでいる。豊富な栄養分がある海だからカキもおいしくプリプリに育つはずだ。

父からのヒントをもらいながら、今まで教科書や図鑑で学んだことと「カキがおいしくなる現象」とがストンと腑に落ちた。

海の恵みを戴くには、海だけでなく海を取り囲む自然が豊かでなければならぬのだ。理科の話をしながらおいしく戴いたカキ。

「おばちゃん。ありがとう。」

と言ってお店をあとにした。

帰り際、少しお腹を落ち着かせるために黙って散歩をした。

頬にふれる風、波のちゃぶん、ちゃぶん、サワサワとなる葉擦れが耳

に心地よい。

海が山や川、島とつながって豊かになり、人間に豊かな恵みを与えてくれている。また、海の水は雨となって山や島の動物や植物を育てている。何もかもがつながっている。小さな生き物たちもその中で、それぞれの役割を果たして生きているのだと思った。人間はそのつながりの中でどんな役割を果たしているのだろうか。今の私にはまだわからない。精いっぱい勉強し、自分なりの答えをみつけたい。